

# あがこん通信

第14号

第14号 平成26年5月1日発行

発行/あがた善彦事務所

〒806-0044 北九州市八幡西区相生町8番1号

TEL 093-631-3261

FAX 093-631-3299

<http://agata-y.jp>



福岡県議会議員 あがた 善彦

## ごあいさつ

爽やかな季節を迎え、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、「神の宿る島・沖ノ島」を視察させていただきました。世界遺産に登録されるよう宗像市・福岡県・地元関係者の皆様が、働きかけをされているところです。古事記、日本書紀に書かれている神代の時代から、現在までの歴史が一体のものとして感じられる、日本の大切な遺産であります。

ユネスコ世界遺産審査会の皆様も、日本の歴史の素晴らしさに感動していると聴かされました。「沖ノ島で見たことはない、草木・土器一片と言えども、持ち帰ってはならない。」などの厳格な決まりが、神宿る島として、保護されて

きた所以でしょう。世界遺産に登録されても、世俗に踏み荒らされることなく、神話と日本歴史の接点の地として保存される様に祈りながら帰って参りました。

さて、最近思うことは、社会制度と国民意識の調和についてです。今日、日本の社会は一人ひとりの自立を基本としながら、社会的保護の必要な人には、社会全体が守っていかうとしています。障害者福祉制度、生活保護制度、年金制度、国民保険・医療制度、奨学金制度、児童手当、私学助成など各分野にわたって様々な心遣いがされています。素晴らしい社会を築いていると思います。この素晴らしい社会を維持発展させる為に、私達は力強く自立し社会貢献

の気持ちで、大きく育てて行かなければならないでしょう。福澤諭吉の「自ら自立して、一国が独立する」という精神に、つながるのだと思います。

この価値を社会全体の共通認識とし、学校教育の場でも十分に理解を求めて行くことにより、日本社会が日々成長していくことになるのだと感じています。

今後とも、皆様のご指導をお願いいたします。



## モノ申す！ 恐るべきマスコミ

四月六日、ルワンダ虐殺から二〇年が報じられた。

一九九六年のこの日、大統領暗殺を機にフツ族がツチ族に襲い掛かる。隣人が突然斧や鉞を握り、残酷極まりない殺人者に豹変した。医師や教会もこれに加担し、わずか百日間で人口の一〇〜二〇%が失われた。原因は複雑でこの紙面では語りつくせないが、直接的に人心を扇動し虐殺に駆り立てたのはラジオ局・RTMLから間断なく流れるプロパガンダ放送であった。

さて視点を我が国の現在に視線を戻そう。中韓との外交問題は最も頭の痛い懸案の一つである。両国の共通点は様々だが、顕著なのはかたくなで非科学的な対日政策を正当化するため、国策として「反日」教育、宣伝を繰り返している点である。嘘偽りであっても際限なく繰り返される言葉に人は洗脳されて行く。

かつて日中、日韓の間にも良好な関係を築いた時代があった。いずれも中国・韓国が明確に発展途上国であった時代である。しかし時は移り、国力は増大。国民に権利意識が芽生え、民主化の進まない国に対する不満が噴出し始める。最初は抑圧で対抗した国も抑えきれない負のエネルギーを「反日」に向け始める。

日本からの援助に頼らず国家経営が成り立つ経済力を獲得すると、都合よくアレンジした歴史問題を大義名分に、これまで両国の成長に少なからず寄与した我が国の立場は、「支援者」から「国民の怨嗟のはけ口」へと変化して行く。

ルワンダやカンボジアの例を引くまでもなく「人を憎め」という卑しく情けない教育や宣伝は、いつか何らかの形で発信する側に跳ね返ってくるように思う。

しかしながら従軍慰安婦も靖国も最初に組上に載せ、問題をこじらせる端緒を作ったのは他ならぬ我が国のマスコミだという事実の重さを肝に銘じたい。(Y)